

国際センター通信(No.130)

The 2nd Salon for Int'l Civil Engineers and Students

“Finding a job in Japan as a foreign engineer: challenges and solutions”

土木学会 国際センター (IAC) ・外国人技術者グループ 留学生サポートチームは、2023年5月13日(土) 10時から11時30分に、日本における就職活動の情報提供を目的とした第2回外国人技術者・留学生サロン「日本における外国人技術者としての就職：課題と解決」をオンライン形式にて開催した。サロンには国内の大学から60名を超える留学生、オーストラリア、インド、ベトナムなど海外から社会人、学生が参加した。

当日は、党 紀 准教授(埼玉大学)の開会あいさつからはじまり、Shrey Sthapit氏(日本工営(株))より、日本での就職活動の体験を紹介いただいた。続いて、先輩セッションでは、日本で働く外国人の土木技術者に、ご自身の就職活動の経験を共有いただき、参加者と意見交換した。そして、最後に伊澤 良則氏((株)安藤・間)のあいさつをもって、サロンを閉会した。

開会のあいさつでは、党 准教授は、本サロン主催のCEIS(Civil Engineering International Students in Japan)が、日本で学ぶ留学生の支援に軸をおいたチームであることに触れ、ホスト先輩プログラムや種々のサロンの開催といった活動を紹介した。また、国際センターが主催するインターナショナルサマーシンポジウム、留学生向け企業説明会やアソシエイトメンバー制度について説明した。

つづいて、Shrey Sthapit氏より、ご自身の経歴と日本での就職活動の体験をお話いただいた。ネパール出身のSthapit氏は、2016年に早稲田大学にて学位取得後、日本工営(株)に入社した。就職活動を始める前から、どのような企業に入社したいか、自分の中ではっきりとした考えを持っていた。3週間のインターンシップ、就職フェアでの情報収集、OB面談の参加を経て、1月から企業への応募に向けて準備を開始した。

就職活動では、できるだけ沢山のインターンシップに参加し、働く環境や企業文化、採用情報を知り、人脈をつくるようにとアドバイスがあった。



エダロ サージ
(大日本コンサルタント
(株))



Sthapit氏によるプレゼンテーション

先輩セッションでは、Rahul Garg 氏（三井住友建設（株））、Luisa Santa Spitia 氏（(株)安藤・間）、Yen Xin Tan 氏（(一社)国際建設技術協会）、党 准教授、Sthapit 氏、Edalo Serge 氏（大日本コンサルタント(株)）は日本で働く土木技術者、研究者として、就職活動の経験をお話くださった。セッションではインターンシップ、給与、求人サイト、日本の働き方など、話題が多岐にわたり意見交換がつづいた。そのため、当初の予定よりセッションが 30 分延長になった。



先輩セッション

最後に、伊澤 良則 氏（(株)安藤・間）が参加者へ感謝を伝え、CEIS および土木学会が今後も留学生を支援していくことを約束し、サロンを終了した。

参加者から、日本の就職活動に関する情報を得られた、今後も就職活動に関するサロンを開催してほしいという感想があった。今後も就職活動のノウハウにフォーカスし、履歴書の書き方や面接対策などの情報提供を検討している。

- The 2nd Salon for Int'l Civil Engineers and Students in Japan : <https://www.jsce-int.org/node/819>
- International Students Support Group Japan, JSCE: <https://www.facebook.com/profile.php?id=100089190174033>

【記：外国人技術者グループ エダロ サージ（大日本コンサルタント（株））】

D&I カフェトーク 第 37 回

D&I に満ちた土木業界を目指す！挑戦し続けるグローバルエンジニア



ゲストスピーカー：ルイサ サンタ スピティア
(株式会社 安藤・間)



ホスト：ジョナタン ゴンザレス
(大日本コンサルタント株式会社)

土木学会 グローバルシビルエンジニア研究小委員会、国際センター 外国人技術者グループのメンバーであり、日本で活躍する外国人土木技術者のジョナタン・ゴンザレス氏と筆者は、2月10日に第37回D&Iカフェトークにて対談を行いました。この対談を通じて、外国人、特に女性技術者が日本で働く難しさが浮き彫りになりました。聴講者の感想と併せて、対談を本稿でご紹介します。なお、本対談の録画はD&I推進委員会のYouTubeチャンネル(<https://youtu.be/kCSII0xoG-E>)にて、ご覧ください。

■ バックグラウンドと日本での生活

筆者は2014年に来日し、東京大学で地盤工学を専攻し、土木工学の博士号を取得。2017年に(株)安藤・間に土木技術者として入社。現在は国内土木事業部に所属し、研究開発、建設現場の支援を行っている。

■ コミュニケーションの問題：言葉だけでなく、文化や人との交流

母国語はスペイン語で、東京大学での勉強は英語でおこなったが、言語に大きな苦労はなく、日本での最初の数年間の生活はさほど難しいものではなかった。しかし、いざ仕事を始めてみると、日常生活で使っていた基本的な日本語だけでは、日本で働くには十分ではないことに気づいた。高い日本語能力を有することが就職するための基本条件のひとつになっており、多くの留学生が抱える問題となっている。筆者も自らのキャリアアップにおいて日本語が障害と感じている。加えて、日本人の人の付き合い、特に男性中心の建設業界での働きづらさをあげている。

視聴者からのコメント

(40代、女性)：海外出身としても、女性としても頑張られている姿をみて励みになりました。日本人同士でもコミュニケーションは難しいと思うので、苦勞されているのではないかと思います。

(60代、男性)：日本の常識は海外では常識ではないことが多いらしい。例えば日本人は物事をストレートに言わないが、好き嫌いのある程度ストレートに言う文化圏から来た外国人にはかなり違和感があり苦勞するようだ。

■ 男性優位な業界にある女性

これまで男性中心であった建設業界は、女性が弱い性として見られてきたことと相まって、2つの女性像を作りだした。そのひとつに、女性は「おとなしく、従順で口ごたえしない」ことを求められ、それに順応する努力をしなければならず、さらに、自らの能力や技術が男性の同僚と同じであること、またそれ以上であることを示すために余計に努力を要している。

視聴者からのコメント

(40代、女性)：優秀で勤勉でなければならないということが女性の **Social Pressure** となっていること。それを男性からも期待されていることにあらためて気づきました。

(男性)：やはり、建設業界は男性社会であると改めて思う。

■ 母親であること、そして日本で働くこと

特に日本では、女性は出産後、職場に復帰しないという考えがあるため「女性は仕事を長く続けない」という女性像が根付いている。それは、2020年に母親になったことで、さらなる重荷となった。社会的なプレッシャーや、母親になった後も自分のキャリアを続けるため、出産後4カ月で職場復帰を決めた。さらに、出産数日後に昇進試験が控えていたため、子どもの世話をしながら小

論文執筆や試験勉強に打ち込んだ。しかし、その努力をもってしても、産休が評価に影響を及ぼし、昇進には至らなかった。偶然にも、職場復帰したタイミングで COVID-19 が流行した。その影響により、すべての仕事をこなすために長時間働かざるを得なくなったが、母親の役割と仕事をなんとか両立できた。

視聴者からのコメント

(40代、女性)：私は女性なので、ルイサさんが出産育児をして仕事を続けている話に共感していました。自分は技術補助なので、何とか調整してもらっていますが、ルイサさんのように技術者として第一線で活躍されている方は本当に大変だと思います。しかもコロンビアと同じ産後4か月で復帰するのは、本当にすごいことだと思います。また昇進試験にも取り組んでいたと聞いて本当に尊敬します。キャリアを止めたくないとおっしゃっていましたが、たくさんの女性が出産育児で止めたり、ペースダウンしたりしている中、ルイサさんのように活躍されている姿を見ると、将来に少し希望が見えるような気がしました。

■ 土木学会 外国人技術者グループ活動

筆者は、土木学会の外国人技術者グループのメンバーとして、2020年から活動している。このグループは、日本の大学に在籍する外国人留学生と、すでに日本で活躍している外国人技術者のニーズへの対応を検討し、支援することを目的としている。活動の一環として、学生や若手エンジニアが関心をもつイベントを開催したり、日本でのキャリアパスの支援ネットワークをつくっている。

このような活動が、この国でさまざまな困難に直面している筆者のような技術者を支援するだけでなく、このような状況をより見える化し、日本がよりオープンで多様性に対応できる国になることを願っている。

視聴者からのコメント

(50代、男性)：ルイサさんはかなりチャレンジングである。一般的な状況と考えるのは難しいかもしれないが、通常、外国人にいわれていることが多かったと思う。また、女性が働く困難さについても、日本人と同様の部分が多い。ただし、障壁は言語だけではなく、文化やコミュニケーションも大きいことに気づいた。日本人が手助けする際に相手の能力を踏まえず、一から教えようすることや、遠回しな対応はまさに文化的背景によるものと思う。妊娠や出産などがある女性のキャリアパスのあり方は、海外でも同じである。この課題をどのように解決しているのか改めて興味を持った。

【記：外国人技術者グループ ルイサ サンタ スピティア（株式会社 安藤・間）】

ユニオン吊橋 記念銘板 除幕式

- Roland A. Paxton 教授 除幕式挨拶 -

国際歴史的土木ランドマーク (IHCEL) の認定を受けた現存する世界最古の道路吊橋であるユニオン吊橋記念銘板の除幕式が 2023 年 7 月 6 日 (木) に開催された。

除幕式では、日英米 3 カ国の土木学会から関係者らが出席した。本稿では、長きにわたりユニオン吊橋の保全活動に尽力いただいた Roland A. Paxton 教授の除幕式での挨拶を紹介する。

■ UCB トークによろこそ (2023 年 7 月 6 日、パクストンハウスにて)

よろこそ皆様、お集まりいただきありがとうございます。私のことをご存じない方のために自己紹介いたします。ローランド・パクストンと申します。フレンズ・オブ・ユニオン・チェーン・ブリッジ (Friends of Union Chain Bridge) の後援者の 1 人です。今日はこの橋の歴史において、そしてツイード川兩岸のコミュニティにとって、非常に特別な日です。

ご記憶の方もあるかと思いますが、私は 9 年前の 2014 年にパクストンハウスで開かれたフレンズの最初の会合で、この橋の保全の経緯についてお話ししました。また、この橋の国際的な認知度を高め、将来にわたってこの橋を保全し、推進することを誓いました。当時、橋は老朽化が進んでおり、見通しは非常に不透明でした。

そして時は流れ、本日を迎えたわけです。多くの人々の努力と挫折、そして成功を経て、美しい橋が修復されました！

しかも、橋の構造のかなりの部分が保全されています。

そして、今なお、世界最古の車両通行可能な吊り橋として記録を更新しているのです。

このタイプの橋梁設計が、世界最長のスパンを持つ橋の建設を可能にしてきました。

1820 年のユニオン吊橋の 133m から、1883 年には 0.5km のブルックリン橋、1998 年には 2km の明石海峡大橋が開通し、現在計画中のイタリアのメッシーナ海峡大橋にいたっては、ユニオン吊橋の 25 倍にあたる 3.3km という驚異的な長さとなります。

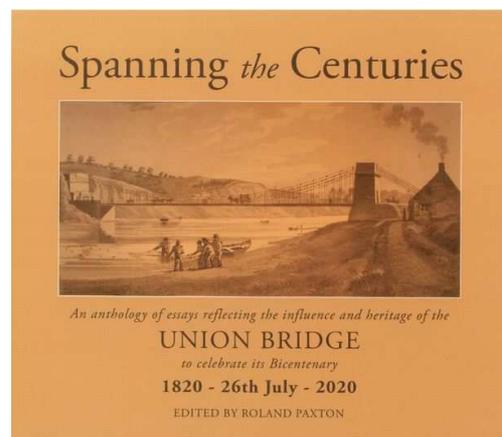
ユニオン吊橋についてさらに詳しく知りたければ、フレンズが発行の『Spanning the Centuries』をご覧ください。

今朝、この橋が国際歴史的土木ランドマークとして正式に認定される場に立ち会えたのは素晴らしいことでした。

また、銘板の除幕にも立ち会いました。除幕式には、



Roland A. Paxton 教授



Spanning the Centuries

米日英の土木学会、構造工学協会（Institution of Structural Engineers）という世界をリードする工学会の代表が参加しました。これらの学会を合わせると、世界中に 34 万人もの会員がいらっしゃいます。

1980 年代以降、この国際的な榮譽はわずか 50 ほどの象徴的な建造物にのみ授与されてきました。フォース橋、ケベック橋、メナイ吊橋、クライゲラヒー橋、ビクトリア橋（ザンベシ）、シドニー・ハーバー・ブリッジ、エディストン灯台、エッフェル塔、クライドバンクのタイタンクレーン、ブルネルのテムズトンネルなどです。そして今、ここにユニオン吊橋が加わりました。

本日午後には、4 つ講演を予定しており、さらに祝賀気分が高まるでしょう。ヘリオット・ワット大学における私の同僚であり、英国土木学会（ICE）の元会長であるポール・ジョウイット（Paul Jowitt CBE）教授に、参加いただいている学会会長と講演者の皆様を紹介いたします。ご清聴ありがとうございました。教授、よろしくお願いいたします。



日英米の土木学会関係者ら



ユニオン吊り橋 記念銘板

お知らせ

【今後の予定】

◆ふくろう多門の土木対談 最終回 公開予定

https://www.youtube.com/playlist?list=PLRALmeewpTqoKp7gGhXqoh_b_pNvYO9oH

◆（8月22日開催）世界で活躍する日本の土木技術者シリーズシンポジウム 第22回

「Bangladesh国カチプール・メグナ・グムティ橋梁プロジェクト及びジャムナ鉄道橋プロジェクト」

<https://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/345>

◆令和5年度 土木学会 会長室

<https://www.jsce.or.jp/president/index.shtml>

◆「海外インフラプロジェクトアーカイブス (JSCE ウェブサイト英語版)」

<http://www.jsce.or.jp/e/archive/>

◆「国際センターだより」※JSCE ウェブサイト (日本語版)

http://committees.jsce.or.jp/kokusai/iac_dayori_2023

◆第43回地震工学研究発表会 (9月7日(木)~8日(金)開催)

<https://committees.jsce.or.jp/eec231/node/22>

◆第194回論説(2023年7月版) オピニオン

(1) 地域のインフラメンテナンスは産学官民の総力戦で

<https://note.com/jsce/n/n5864a663b73f>

(2) 河川堤防の構造物周りの強靱化に期待する

<https://note.com/jsce/n/n1e81ffdf6c9f>

◆土木学会誌 2023年7月号 ※JSCE ウェブサイト (英語版)

<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>

◆ECCE E-Journal 26 - August 2023 edition

<https://www.dropbox.com/scl/fi/hfivfn660abxao7so1jj6/ECCE-E-journal-26.pdf?dl=0&rlkey=xosn7ftbz3e7juui1063rr626>

◆The 4th International Conference on Transportation Infrastructure and Sustainable Development (TISDIC 2023) : <https://tisdic2023.dut.udn.vn/>

◆CECAR10 : <http://www.cecar10.org/>

◆ASCE 2023 CONVENTION, CHICAGO (October, 18-21)

<https://convention.asce.org/>

◆KSCE 2023 CONVENTION (October, 18-20)

<https://eng.ksce.or.kr/activities/act01.asp?idx=60&page=1&sfield=>xt=&byy=&gbns=1&ctop=MN0335&htop=MN0323&ptop=MN0323&smm=&btype=&bgbn=R>

配信申し込み

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

・日本語版: (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)

・英語版: (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

英語版 Facebook

直近の国際センターの活動について紹介しています。

(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

【ご意見・ご質問】 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp 皆様のご意見やコメントをお待ちしております。